

# 子どもたちのオランダ見聞録

## 山田町ジュニア海外使節団



1月5日から1月13日までの日程でオランダを訪問した町ジュニア海外使節団（中学生8人、高校生2人）の報告会が、2月6日に町中央コミュニティセンターにおいて行われました。江戸時代にオランダ船ブレスケンス号が山田湾に漂着したという史実が縁で始まった同国への派遣も、今年で18回目。今号では、生徒たちの体験談とあわせ、交流の様相を引率の三井寺美緒佳教諭がリポートします。



みいでらみおが  
引率の三井寺美緒佳教諭

豊間根中学校の青柳清隆校長を団長とした、豊間根中・山田中の2年生8人と山田高の2年生2人、引率者3人の山田町ジュニア海外使節団13人は1月5日から13日までの9日間の日程で、友好都市オランダ王国ザイスト市を訪問しました。

### ◎オランダの文化

1月6日、私たちが初めて地を踏んだオランダ・アムステルダムは人口78万人。オランダの首都であり最大の都市です。空港周辺は近代的なデザイン、建物が多く、堤防の上には太陽光パネルが設置され、風力発電の風車も見られ、広い自転車専用道路、広く無料の高速道路、近代的な公共のバスや列車など、近代的で自然エネルギー先進国の姿に驚かされました。

### ◎ドム塔

1月9日、人口30万人のオランダ第4の都市・ユトレヒトを観光しました。465段の階段があり、112メートルのオランダで最も高い教会であるドム塔を、ホストファミリーの子どもたちやCLZ校の先生方と共に登りました。日本では鎌倉時代にあたる1254年に建設が開始され、128年かけてドム塔は完成。地上95メートルから見渡す風景、吹き上げる風の強さと、街を一望する絶景に言葉は出ず、世界中を席捲していた当時のオランダの勢いと歴史の重みを感じました。

ザンセスカンズでは、オランダの発展には欠かせない、風車のある伝統的な農耕地の風景や、民族衣装でのチーズづくりの説明、木靴工房見学を楽しむことができました。

歴史的なものに誇りを持ち、守りながら、新しいものを上手に融合させる、オランダの人々の精神を肌で感じることができました。





## オランダでできた大切な家族

山田高 長根芽吹さん

私にとって、ホストファミリーと過ごした6日間は、とても楽しく充実した時間でした。

初めは、不安な気持ちで一杯でしたが、ホストファミリーの笑顔や心の温かさに触れるたびに不安が消え、今回の目的であった、食生活や生活スタイルの日本との違いを実感することができました。様々なことに驚きや感動がありましたが、その一つに堤防の上に設置された太陽光パネルがあります。街灯の発電に利用するなど、山田町復興の参考にできるのではないかと思います。今回の経験を通じ視野を広げ、自分自身も成長できたと感じます。

## 憧れの国オランダ素晴らしい経験に

山田高 中村 諒くん



僕は以前から外国に行きたいと思っていました。そしてこの研修はまたとない機会であり、晴れて行くことができました。オランダは小さい頃から憧れていた景色そのまま、ため息が出るほど美しかったです。一番楽しみでもあり不安でもあったホームステイでは、家族みんなから温かく迎えられ安心しました。多少英語の発音が悪くてもジェスチャーでコミュニケーションを取ることができ、大切なのは発音等より伝えようとする意思なのだと思感。国や言語、環境が違う中で人の温かさを強く感じる事ができた、素晴らしい経験だったと思います。

◎子どもたちの成長  
緊張と不安の面

山田の子どもたちが国境を越え、人を大切にする心を熱く持ち活躍できるよう努力してまいります。

## オランダ派遣を終えて

ジュニア海外使節団団長  
青柳清隆豊間根中校長



今回、光栄にも山田町ジュニア海外使節団の団長として、オランダ派遣の機会を得ました。

出発前に木村悌郎先生の執筆された本で、山田町とオランダとの交流がどのように積み重ねられてきたのかを知り、そして感銘を受け、同時に大きな責任を感じました。

若干の不安を抱えての出発でしたが、オランダで接した皆さんは、どの人も包み込むような優しさと親切心にあふれ、忍耐強い対応と抑制された言動で、私たち派遣団員の不安は初日からどこかへ吹き飛んでしまいました。それぞれのホストファミリーとの交流を通じて、派遣団員全員が大きな感動と達成感を味わうことができました。団員一人ひとりの心の中に、次の行動につながる「何か」が植え付けられたことを感じます。この「何か」が、将来どんな花を咲かせ、どんな実を結ぶのか、とても楽しみです。

## 主な行動日程

1月5日…本町出発 6日…アムステルダム着 7日…CLZ校で歓迎会/ザイスト市役所表敬訪問/ホームステイ先へ(12日までザイスト市内でホームステイ) 8日…CLZの授業に参加 9日…ユトレヒトで鉄道博物館・ドム塔見学/フェアウェルパーティー 10日…アムステルダム日本人学校訪問/ゴッホ美術館見学/ザーンセスカンス見学 11日…終日ホストファミリーと過ごす 12日…アンネの家見学/ホストファミリーとお別れ 13日…帰町

### ◎CLZ校

人口6万人のザイスト市は、閑静な住宅と自然が美しい静かな都市です。歴史あるクリスティック・リセイム・ザイスト(CLZ)校では、講堂に入りきらないほどの生徒たちから大歓迎。私たちは、体育や技術、音楽、英語、パソコン、ドラマの授業に参加しました。現在CLZ校では、授業は母国語であるオランダ語と、英語が半々で行われ、生徒たちは自然に英語でコミュニケーションをとって、楽しんでいました。

持ちで、初めてホームステイ先の子どもたちと出会った日から涙の別れまでの、6日間。山田の子どもたちは素直さとたくましさをも十分に発揮し、そして大きく成長しました。ジュニア海外使節団事業が始まった当時からよく知る、ザイスト市国際交流団体・財団法人ホフライスのコニーさんや通訳の山口千真さんからは、「自分からコミュニケーションをとろうとする積極性や、英語を使って伝えようとする勤勉さは、近年にはないほどだ。何か変わったのか」と褒めていただいたほどです。生徒たちは、英語やコミュニケーションの大切さ、オランダと日本の文化の違い、言葉の壁を越えた友情を学びました。子どもたちはもちろんのこと私自身も成長した9日間となりました。

### ◎山田とオランダの絆

オランダ・ブレスケンス号が山田大浦に入港して370年。当時の山田の方々の優しさと、ザイスト市との友好関係締結に尽力された方々の熱意がオランダと山田をつなぎ、私たちはこの貴重な体験をすることができました。



①CLZ校でオランダの生徒と一緒に授業を受ける生徒たち／②ザイスト市長を表敬訪問／③オランダ伝統の風車の前で記念撮影／④フェアウェルパーティーでホストファミリーと交流を深める



## 日本人学校で 学んだこと

山田中 木下 あおい 葵さん

たとえ国や言葉は違っても、心はつながっているということを感じたオランダでの1週間でした。アムステルダム日本人学校では、驚いたことがたくさんありました。その中で私が印象に残っていることは、予想以上の生徒数の多さと、授業が日本と同じところとです。同世代の日本人たちが世界の様々な環境で生活していることを初めて身近に感じ、海外で生活していることをとても羨ましく思い、また、適応して生活する姿を尊敬しました。今回のオランダ派遣で学んだことを生かし、もっと言葉が通じるようにたくさん勉強していきたいです。



## アンネの家を見学 その生涯を思う

山田中 しん いえ ところ 新家 想さん

私がこのオランダ訪問で一番興味があったのは、「アンネ・フランクの家」です。最終日、私たちはホストファミリーと別れた後、アンネの家に向かいました。近くには、アンネ・フランクの銅像があり、アンネたちが隠れて過ごした家には、アンネが着ていた服や日記がありました。細い階段を上り、隠れ家の扉を見た時、感動と悲しみがこみ上げました。歴史が刻まれた家で、アンネの短い人生を思い、とてもつらいことだったろうと思いました。このオランダでの日々で学んだ文化の違いや、オランダの方々の良さを友達や家族に伝えていきたいです。

## 楽しく学べた CLZ校の授業

山田中 りお 佐々木麗緒さん

CLZ校では、日本の学校との違いがたくさんありました。まず驚いたことは、学習用パソコンを一人一人が持ち、ほとんどの授業で使っていたことです。また、校内でお菓子などが売られ、自由に食べているのに驚きました。体育や美術、ドラマなどの授業に参加しました。活動場所まではホストフレンドが迎えに来てくれ、授業中も何をやるのかなど一生懸命説明してくれる人や日本語で話しかけてくれる人がいて、あまり言葉は通じませんでしたがとても楽しかったです。オランダで学んだことを、これからの学校生活に生かしていきたいです。





## あつという間の オランダでの生活

豊間根中 佐々木柚香さん

私の一番の思い出に残っているのは、オランダに着いて4日目の郊外学習でユトレヒトに行ったことです。鉄道博物館では、展示物の様々な仕掛けやアトラクションがあり、とてもおもしろかったです。また、スケートもしました。ホストフレンドのプレッセーラはスケートが苦手で、私も初めてだったのでとても大変でした。次は、ボウリングに行きました。ストライクやスパアを出すと、みんなで盛り上がりました。楽しいことばかりでとても早く時間が過ぎるような感じがしました。たくさん学んだことをこれからの生活で生かしていきたいです。



## 言葉伝わらずとも 思いは伝わる

豊間根中 吉川幸汰くん

僕は、日本とほぼ正反対の位置にあるオランダに、町代表として行ってきました。オランダは、住宅が日本と違った形で集まり、とても色鮮やかな家ばかり。そして何より、日本とオランダで一番違うのは言葉です。同国では、オランダ語と英語を混ぜ合わせて使っていたのです。僕は思いが伝わるか不安でしたが、オランダに着いたら不安がなくなりました。僕はジェスチャーで気持ちをうまく伝えられ、言葉じゃなくても伝えることができるんだと、感動しました。今後もホストファミリーと連絡を取り合い外国にいる感覚を保っていきます。

## 日本とオランダの 違い印象に残った

豊間根中 芳賀元希くん



僕は、今回のオランダ研修でさまざまなことを学びました。その中でも一番印象に残ったことは、コミュニケーションに臨む姿勢の違いです。ホストファミリーたちは、僕と初めて会うというのに、とても仲良く接してくれました。ホストファミリーの一員として過ごすことができ、とても楽しかったです。日本とオランダは、こんなにコミュニケーションに臨む姿勢に違いがあるのだなと実感できた1日でした。僕は、オランダ派遣で学んできたことを忘れずに生活していきたいし、これからもいろいろなことにチャレンジしていきたいです。



あつという間の7日間  
が過ぎ、ホストファミリーと涙の別れ



## オランダの方々の 優しさに触れて

山田中 武藤百香さん

私の一番印象に残っていることは、ホストフレンドやご家族、現地の友達がとても優しくしてくれたことです。すごく緊張して全然話せなかった私に、たくさん話しかけてくれました。3日目の歓迎会では、大きな拍手と歓声、そして笑顔で迎えてくれ、とても安心したのを覚えています。言葉が思うように通じない中でも、しっかりとコミュニケーションが取れました。一緒に観光や買い物をしたり、料理を作ったり、時が経つにつれて絆がさらに深まりました。このような素晴らしい経験ができたことに感謝し、この気持ちを忘れず生活していきます。

## オランダで 過ごした7日間

山田中 田中真琴さん



私がこの体験を通して印象に残っていることは、ザーンセスカンズ観光です。同地には、伝統の風車やチーズ、木靴がありました。風車には、農業灌漑や染色、製材、製粉と種類があることを初めて知りました。また、チーズにも熟成期間や加工によって色々な種類があり驚きました。木靴の製作現場も見学し、普段日本では決してできないことを体験できうれしかったです。この7日間を通して新しい仲間や友達にも出会い、全てが最高の思い出となりました。オランダでできた友達やホストファミリーにまた会って「ありがとう」と言いたいです。